

第 3 問

人間は言語を用いることによってその時代や地域に応じた思想を生みだし、またその思想は、人間ないし人間集団のあり方を変化させる原動力ともなった。このことに関連する以下の設問(1)~(10)に答えなさい。解答は、解答欄(ハ)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(10)の番号を付して記しなさい。

問(1) 古代ギリシアの都市国家では、前7世紀に入ると、経済的格差や参政権の不平等といった問題があらわになりはじめた。ギリシア七賢人の一人に数えられ、前6世紀初頭のアテネで貴族と平民の調停者に選ばれて、さまざまな社会的・政治的改革を断行した思想家の名を記しなさい。

問(2) この思想集団は孔子を開祖とする学派を批判し、人をその身分や血縁に関係なく任用しかつ愛するよう唱える一方で、指導者に対して絶対的服従を強いる結束の固い組織でもあった。この集団は秦漢時代以降消え去り、清代以後その思想が見直された。この思想集団の名を記しなさい。

問(3) キリスト教徒によるレコンキスタの結果、イスラーム教勢力は1492年までにイベリア半島から駆逐された。その過程で、8世紀後半に建造された大モスクが、13世紀にキリスト教の大聖堂に転用された。この建造物が残り、後ウマイヤ朝の首都として知られる、イベリア半島の都市の名を記しなさい。

問(4) 10世紀頃から、イスラーム教が普及した地域では、修行などによって神との一体感を求めようとする神秘主義がさかんになった。その後、12世紀頃から神秘主義教団が生まれ、民衆の支持を獲得した。その過程で、神秘主義を理論化し、スンナ派の神学体系の中に位置づけるなど、神秘主義の発展に貢献したことで知られる、セルジューク朝時代に活躍したスンナ派学者の名を記しなさい。

問(5) 華北では金代になると、道教におけるそれまでの主流を批判して道教の革新をはかり、儒・仏・道の三教の融合をめざす教団が成立した。これは華北を中心に勢力を広げ、モンゴルのフビライの保護を受けるなどして、後の時代まで道教を二分する教団の一つとなった。この教団の名を記しなさい。

問(6) アラビア半島で誕生したイスラーム教は西アフリカにまで広がり、13世紀以降には、ムスリムを支配者とするマリ王国やソンガイ王国などが成立し、金などの交易で繁栄した。両王国の時代の中心的都市として知られ、交易の中心地としてだけではなく、学術の中心地としても栄えたニジェール川中流域の都市の名を記しなさい。

問(7) 清代に入ると、宋から明の学問の主流を批判し、訓詁学・文字学・音韻学などを重視し、精密な文献批判によって古典を研究する学問がさかんになった。この学問は、日本を含む近代以降の漢字文化圏における文献研究の基盤をも形成した。この学問の名を記しなさい。

問(8) 19世紀半ば頃イランでは、イスラーム教シーア派から派生した宗教が生まれ、農民や商人の間に広まった。この宗教の信徒たちは1848年にカージャー朝に対して武装蜂起したが鎮圧された。この宗教の名を記しなさい。

問(9) アダム＝スミスにはじまる古典派経済学は19世紀に発展し、経済理論を探究した。主著『人口論』で、食料生産が算術級数的にしか増えないのに対し、人口は幾何級数的に増えることを指摘して、人口抑制の必要を主張した古典派経済学者の名を記しなさい。

問(10) 19世紀から20世紀への転換期には、人間の精神のあり方について、それまでの通念を根本的にくつがえすような思想が現れた。意識の表層の下に巨大な無意識の深層が隠れていると考え、夢の分析を精神治療に初めて取り入れたオーストリアの精神医学者の名を記しなさい。